

和泉葛城山の昆虫（2017-2018 年度調査）

岩崎 拓（CB 大阪）

はじめに

和泉葛城山の山頂付近の昆虫相を明らかにするため、2008 年に予備的な調査を開始し、2009 年以降は 4 月から 12 月まで毎月 1 回の割合で定期的な調査を行ってきた（岩崎、2020）。2017-2018 年度も昆虫相全般を対象にした調査を行ったので、ここに報告する。

調査方法

2017 年と 2018 年の 4 月から 12 月にかけて、毎月 1 回、雨でない日を選んで調査を行った。山頂付近（標高 820～858 m : メッシュコード 51354314-15 : 図 1、2）を約 3 時間かけて歩き、目視あるいは鳴き声等によって種の確認を行った。目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、同定が困難な種や貝塚市立自然遊学館（以下、自然遊学館）に標本のない種等を採集し、自然遊学館の所蔵標本とした。

今回の調査結果は、速報としてはすでに自然遊学館の季刊誌である「自然遊学館だより」において報告済みである（岩崎、2018、2019）。

結果および考察

両年の調査で確認された昆虫を、大阪府レッドリストの指定種、貝塚市内での分布が和泉葛城山の山頂付近にほぼ限られる山地性の種、および自然遊学館に標本がなかった種を中心に、それぞれの目ごとに簡単な解説を行った。また、必要に応じて、自然遊学館がこれまでに収集・所蔵してきた貝塚市産昆虫標本のデータとの比較を行った。

トンボ目

大阪府レッドリスト種として、2017 年 10 月 5 日にオツネントンボ（3 個体）（図 3）、2017 年 8 月 3 日と 2018 年 8 月 9 日にミヤマアカネ、2018 年 10 月 9 日にアキアカネ（3 個体）を確認した。いずれもランクは準絶滅危惧である。ミヤマアカネは、山頂の調査では、2010 年からしばらく確認されな



図 1. 山頂付近のブナ林 2017. 5. 11



図 2. 山頂付近の登山道 2017. 11. 2



図 3. オツネントンボ 2017. 10. 5

ったが、2015年からは4年連続で8月を中心とした夏期に確認された。アキアカネは、山頂の調査では、2010年以降の確認であった。

バッタ目

大阪府レッドリスト種としては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴを2017年の6月1日、7月6日、8月3日、および2018年の5月17日（幼虫）、6月14日、7月12日に、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキを2017年7月6日（幼虫）と10月5日、および2018年7月12日（幼虫）と10月9日に確認した（表1、2）。両種とも2008年の調査開始以来、ほぼ毎年確認していて、個体群は安定的に保たれていると考えられる（表9参照）。

その他、ホソクビツユムシ、ヤマトフキバッタ、ツマグロバッタ、およびヒロバネヒナバッタは、貝塚市内では、和泉葛城山の山麓から山頂付近にかけて分布している種である。

表1. 和泉葛城山山頂付近において2017年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 25日	5月 11日	6月 1日	7月 6日	8月 3日	9月 19日	10月 5日	11月 2日	12月 7日
コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>							○			
カマドウマ科	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>									死体	
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△		△						
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>					△					
ツユムシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>		△	△							
	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>						△	○	○		
	ヤマクダマキモドキ	<i>Holochlora longifissa</i>			△	△						
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>					△			○		
	ヒメツユムシ	<i>Leptotera albicorne</i>							○		○	
コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							○	○		
マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus indicus</i>								○		
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>							○	○	○	
	マダラスズ	<i>Pteronemobius nigrofasciatus</i>					○		○	○	○	
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>		△	△	△	○	○	○	○	○	
	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>									△	
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>				○	○	○				
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>					○	○	○			
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>			○	○			○	○	○	
ヒシバッタ科	モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>			○				○	○		

表2. 和泉葛城山山頂付近において2018年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 12日	5月 17日	6月 14日	7月 12日	8月 9日	9月 27日	10月 9日	11月 8日	12月 13日
カマドウマ科	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>		△			△					
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>			△			○				
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>			△	△	△					
ツユムシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>		△			○		○			
	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>						△	○			
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>					△			○		
コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							○	○	○	
マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus indicus</i>							○			
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>							○	○	○	
	マダラスズ	<i>Pteronemobius nigrofasciatus</i>					○	○	○	○	○	○
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>								○	○	
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>		△	△	△	○	○	○	○	○	死体
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>			△	○	○					
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>					○	○	○			
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>								○	○	
ヒシバッタ科	モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>			○			○				

カメムシ目

セミ科は、2017年に7種、2018年に6種を鳴き声で確認した(表3、4)。このうち、エゾゼミとハルゼミは大阪府レッドリストにおいて準絶滅危惧に指定されている。エゾゼミとハルゼミは、2008年以降、毎年確認している(表9参照)。エゾゼミの2018年7月12日の確認は、スギの切り株に這い上がって、羽化しようとしていたものである(図4)。ハルゼミに関して、2017年6月1日の調査では、20個体以上の鳴き声を聞くことができた。



図4. エゾゼミの幼虫
2018. 7. 12

表3. 和泉葛城山山頂付近において2017年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「○」印は、鳴き声での確認を示している。

種	学名	調査日	4月 25日	5月 11日	6月 1日	7月 6日	8月 3日	9月 19日	10月 5日	11月 2日	12月 7日
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>						○	○	○		
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						○				
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>							○			
ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>						○				
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							○			
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>			○	○	○					
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>						○				

表4. 和泉葛城山山頂付近において2018年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「○」印は、鳴き声での確認を示している。

種	学名	調査日	4月 12日	5月 17日	6月 14日	7月 12日	8月 9日	9月 27日	10月 9日	11月 8日	12月 13日
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>					△	○	○			
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						○				
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>						○				
ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>					○	○				
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>			○	○						
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>					○	○				

2017年と2018年に確認したツノカメムシ科とカメムシ科のリストを、それぞれ表5と表6に示した。ツノカメムシ科は、2017年に5種、2018年に4種を確認した(表5、6)。山地性のカメムシ科として注目しているトゲカメムシ、トホシカメムシ、ツノアオカメムシ(図5)、ツマジロカメムシを2017年と2018年に、エゾアオカメムシを2017年に確認した。



図5. ツノアオカメムシ
2018. 9. 27

その他、2017年5月11日のマツヒラタナガカメムシ、同年6月1日のツヤカスミカメダマシ、および2018年5月17日に確認したアラゲオオヒラタカメムシは、これまで自然遊学館に標本がなかった種である。

表5. 和泉葛城山山頂付近において2017年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 25日	5月 11日	6月 1日	7月 6日	8月 3日	9月 19日	10月 5日	11月 2日	12月 7日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>					○	死体	○	○	○	
	ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forficula</i>							○			
	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>								○	○	
	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>									○	
カメムシ科	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>									○	○
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>			△				○			
	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>							○		○	
	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>			○				△○		○	
	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>						○				
	エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>										○
	シロヘリカメムシ	<i>Aenalia lewisi</i>					○					
	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>							○	○	○	
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>									○	○
	ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>										○

表6. 和泉葛城山山頂付近において2018年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 12日	5月 17日	6月 14日	7月 12日	8月 9日	9月 27日	10月 9日	11月 8日	12月 13日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>					○	○			○	
	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>						○				
	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>							○			
カメムシ科	アオモンツノカメムシ	<i>Elasmotherus nubilus</i>			○							
	ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>					○					
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>					○					
	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>								○		
	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>								○		
	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>							○			
	シロヘリカメムシ	<i>Aenalia lewisi</i>			○	○						
	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>			○				△			
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>			○		○	○				
	ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>							○			

コウチュウ目

大阪府レッドリスト種では、準絶滅危惧のシロジュウゴホシテントウを2017年6月1日に確認した。この種は、2016年に、山頂の調査で初めて確認し、2年連続の確認となった。

自然遊学館に標本がなかった種として、2017年に、ドロハマキチョッキリ（4月25日、ベニホシ型、図6）、オオニジゴムシダマシ（5月11日）、オオアカバハネカクシ（6月1日）、ムネアカクロジョウカイ（7月6日）、ゴマダラモモブトカミキリ（同）が確認され、2018年には、ハイイロビロウドコガネ（5月17日）、オニアカハネムシ（同）、アカネカミキリ（同）、ホソアナアキゾウムシ（同）、ルリゴムシダマシ（6月14日）、コウヤホソハナカミキリ（7月12日）を確認した。



図6. ドロハマキチョッキリ
2017. 4. 25

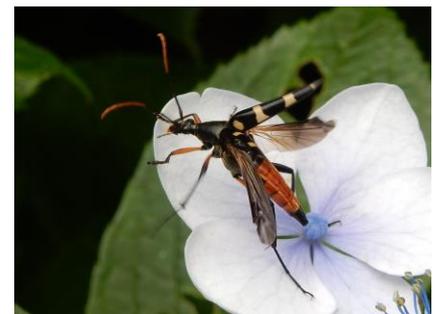


図7. コウヤホソハナカミキリ
2018. 7. 12

チョウ目

2017年に確認したチョウ類は24種、2016年は26種であった(表7、8)。大阪府レッドリスト種として、2017年にミスジチョウ、2016年にアオバセセリ(図8)とブナアオシャチホコ(図9)を確認した。ランクはいずれも準絶滅危惧である。イシガケチョウは2008年の調査開始以来、初めて確認したが(図10)、自然遊学館には1990年代の標本が多数あり、月1回の調査回数の少なさに左右された結果であると考えられる。

表7. 和泉葛城山山頂付近において2017年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月 25日	5月 11日	6月 1日	7月 6日	8月 3日	9月 19日	10月 5日	11月 2日	12月 7日	
アゲハチョウ科	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>				○							
	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>						○		△			
シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>						○					
	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>					○						
タテハチョウ科	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>				○	○	○	○				
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>			○				○		○		
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>					○	○					
	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>						○					
	ヒメジャノメ	<i>Mycalasis gotama fulginia</i>						○					
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>			○	○	○	○	○	○			
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>						○	○				
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>					○	○	○				
	ミスジチョウ	<i>Neptis philyra excellens</i>					○						
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>						○					
シジミチョウ科	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>							○				
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>				○				○			
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>				○					○		
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>				○					○		
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>						○					
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>					○	○	○			○	
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>			○	○*	○	○			○	○	
	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>						○				
		コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>							○			
		キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i>					○				○	

表8. 和泉葛城山山頂付近において2018年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月 12日	5月 17日	6月 14日	7月 12日	8月 9日	9月 27日	10月 9日	11月 8日	12月 13日	
アゲハチョウ科	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>			○								
	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>			○	○							
シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>		○	○	○	○						
	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>				○							
タテハチョウ科	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>			○	○	○	○					
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>				○	○	○	○	○			
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>				○	○						
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>						○	○				
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>						○					
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>						○					
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>						○					
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>								○			
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>										○	
	ヒオドンチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>		○									
シジミチョウ科	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>								○			
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>								○			
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>			○	○	○				○		
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>						○	○	○	○		
	ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>					○		○				
	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>									○		
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>					○						
	セセリチョウ科	アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii</i>			○							
		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>						○		○		
		チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>								○		
コチャバネセセリ		<i>Thoressa varia</i>			○								
キマダラセセリ		<i>Potanthus flavus flavus</i>					○		○				



図 8. アオバセセリ
2018. 5. 17



図 9. フナオシャチホコ
2018. 7. 12



図 10. イシガケチョウ
2018. 10. 9

自然遊学館に標本がなかった種は、2017年5月11日に確認したクロハネシロヒゲナガと同年6月1日に確認したマエグロシラオビアカガネヨトウの2種であった。

ハチ目

大阪府レッドリスト種として、クロマルハナバチを2017年10月5日に確認した。2012年以來の記録となった。ランクは準絶滅危惧である。注目種としては、シダクロスズメバチを2017年5月11日と11月2日に(図11)、キオビホオナガスズメバチを2017年7月6日に確認した。その他、ハチ類に似たハチガタハバチを2018年6月14日に確認した。2008年の調査開始以来、初めての確認であるが、これまでも和泉葛城山では採集記録があった種である(吉田、2006)。



図 11. シダクロスズメバチ
2017. 11. 2

その他

2008年の調査開始以来、カマキリ目はオオカマキリしか確認していない。自然遊学館の標本にも、山頂付近のヒメカマキリもヒナカマキリもなく、意外な結果であり、見落としの可能性はある。

大阪府レッドリスト種としては、アミメカゲロウ目のクシヒゲカゲロウが2018年7月12日に確認されている(ランクは情報不足)。2008年の調査開始以来、山頂では初めての確認となった。



図 12. モイワウスバカゲロウ
2017. 8. 3

アミメカゲロウ目では、モイワウスバカゲロウが自然遊学館の記録として、1993年以來の確認となった(図12)。春先に出現するシリアゲムシ目のキシタトゲシリアゲ(2017年4月17日)は、以前、キシマシリアゲと誤同定していたものである。ハエ目では、2017年5月11日に確認したオオフタホシヒラタアブが自然遊学館になかった種であるが、撮影だけになってしまった。

大阪府レッドリスト種と注目種

2008年の調査開始以降、今回の調査で初めて確認した大阪府レッドリスト種は、先述した通り、情報不足のクシヒゲカゲロウ1種だけであった(表9)。自然遊学館には、蕎原東手川で2007年7月18日に採集された標本が1個体ある。

表9. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2018年にかけて行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種

ランク	目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年		
絶滅危惧Ⅰ類	バッタ目	マツムシ科	カヤコオロギ	<i>Euscyrtus japonicus</i>	○												
絶滅危惧Ⅱ類	バッタ目	バッタ科	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>				○									
準絶滅危惧	カメムシ目	ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tengu</i>	○		○				○						
			コウチュウ目	コガネムシ科	ムネアカセンチュウガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>						○					
	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>				○	○							○	
			ムカシトンボ科	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>				○								
		トンボ科	ヤンマ科	オオルリボシヤンマ	<i>Aeschna nigroflava</i>											○	
			トンボ科	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>									○	○	○	○
				アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>											○	
	バッタ目	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			アメンボ科	ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>											○	
	コウチュウ目	クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>	○			○	○								
テントウダマシ科		セダカテントウダマシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>		○		○								○		
テントウムシ科		シロジウゴボシテントウ	<i>Calvia quindecimguttata</i>											○	○		
カミキリムシ科		セダカコブヤハズカミキリ	<i>Parechthistatus gibber gibber</i>											○			
チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>							○							
		スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>									○					
		ミスジチョウ	<i>Neptis philyra excellens</i>												○		
	セセリチョウ科	アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii japonica</i>											○	○	○	
		ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>						○	○	○	○					
		ヤママユガタ科	エソヨツメ	<i>Agria tau microtau</i>													
	シャチホコガ科	ブナアオシャチホコ	<i>Syntypistis punctatella</i>											○	○		
情報不足	アミメカゲロウ目	クシヒゲカゲロウ科	クシヒゲカゲロウ	<i>Dilar japonicus</i>											○		
	コウチュウ目	コメツキムシ科	トラフコメツキ	<i>Selatossomus onerosus</i>					○								
			ルリツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>					○								
	ハチ目	ミツバチ科	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>	○	○	○	○						○			

ほぼ毎年確認している種としては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴ、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミがあげられる。最近、よく確認されるようになった種としては、ミヤマアカネ(図13)やアオバセセリがあげられるのに対して、確認が途絶えている種は、2008年が最後の確認年になっているカヤコオロギ、2010年のムカシトンボ、2011年のトラフコメツキなどである。その他、ヒョウモンチョウ類がミドリヒョウモンとツマグロヒョウモンだけの確認が続いているのも気がかりである。



図13. ミヤマアカネ
2017.8.3

山地性や、貝塚市内でこれまでの記録が和泉葛城山の山頂付近に限られるという種、あるいは2014年の大阪府レッドリストの改訂においてランク外とされた種などを注目種とし、それらの確認年を表10に示した。月1回という頻度なので、確認/非確認の記録も、そのようなものとして受け取っていただきたい。

表10. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2018年にかけて行われた調査で確認された注目種

目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
バッタ目	カマドウマ科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>					○	○	○	○			
	キリギリス科	ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>	○	○	○	○	○	○					
	ツユムシ科	エソツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>				○	○		○				
ナナフシ目	ナナフシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>				○	○				○	○	○
		ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>		○		○	○	○	○	○			○
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	エソハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>					○	○	○			○	
		コブハサミムシ	<i>Anechura harmandi</i>				○	○		○	○			
カメムシ目	アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Phylagra albinotata</i>	○					○	○	○			
	サンガメ科	オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○	○		○	○			○		○	
	カメムシ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>	○	○	○				○	○	○	○	○
		エソアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>			○	○				○		○	○
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○	○		○	○	○	○		○		○	
	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>		○			○				○			
	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	○	○			○		○	○		○	○	
	ヨツボシカメムシ	<i>Homalagonia obtusa</i>			○									
	コウチュウ目	クワガタムシ科	アカアシクワガタ	<i>Nipponodorcus rubrofemoratus</i>						○				
ミヤマクワガタ			<i>Lucanus maculifemoratus</i>	○	○			○						
ハスジクワガタ			<i>Cleonus japonicus japonicus</i>	○										
ハエ目	ハナアブ科	ニトベッコウハナアブ	<i>Volucella linearis</i>							○				
チョウ目	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>				○	○	○	○	○	○	○	
		アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハチ目	ヤマユガ科	ヒメヤマユ	<i>Caligula jonassii jonassii</i>				○							
	スズメバチ科	シダクロスズメバチ	<i>Vespula shidai</i>	○	○				○	○	○		○	
		キオビホオナガスズメバチ	<i>Dolichovespula media</i>						○				○	
	ミツバチ科	オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>			○			○					

謝辞

アラゲオオヒラタカメムシ、オオニジゴミムシダマシ、ゴマダラモモトカミキリ、オニアカハネムシの標本を同定していただいた澤田義弘氏、ハイイロビロウドコガネ、ルリゴミムシダマシの標本を同定していただいた森康貴氏、およびキシタトゲシリアゲの同定に関してご教示いただいた覚野良子氏に謝意を表する。

引用文献・参考文献

- 岩崎 拓 (2018) 和泉葛城山昆虫調査 2017. 自然遊学館だより No. 87 : 15-17.
 岩崎 拓 (2019) 和泉葛城山昆虫調査 2019. 自然遊学館だより No. 91 : 19-21.
 岩崎 拓 (2020) 和泉葛城山の昆虫 (2015-2016 年度調査) . 貝塚の自然 第 20 号 : 23-36.
 大阪府 (2014) 『大阪府レッドリスト 2014』, 48pp.
 吉田浩史 (2006) 『大阪府のハバチ・キバチ類』, 128pp. , 西日本ハチ研究会.

付図

毎月の調査後すぐに、気候や他の動植物の状況も含めて、調査速報を作成した。それらを付図として以下に掲載した。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年4月）

2017年4月25日 天候：晴れ 調査者1名
 楽しみにしていたチョウ類がスジグロシロチョウとキタテハの2種だったのは期待外れでした。ニリンソウ、エイザンスミレ、タチツボスミレ、ミツバツツジ、ヤマウグイスカグラ、ウリハダカエデなどが花を咲かせていました。



コウチュウ目
 12種いて、目ごとで比べると最多でした。その中で、ドロハマキチョッキリは自然遊学館に標本がない種でした。前翅に赤色の紋があるベニホシ型で、ウリハダカエデの葉上にいました。その他、マイマイカブリ、フジハムシ、ヒゲナガオトシブミなどを確認しました。



ドロハマキチョッキリ

シリアゲムシ目
 2010年4月17日にも、このシリアゲムシを採集していたのですが、同定ミスの標本を参考にして、キシタトグシリアゲと誤同定してしまいました。胸部と腹部が黒色でないことから、キシタトグシリアゲが正解でした。他のシリアゲムシよりも早い時期に現れるようでした。



キシタトグシリアゲ

ハチ目
 コマルハナバチも、他のマルハナバチよりも早く現れます。この時期の山頂で重要な蜜源になっているヒメオドリコソウが、平地にも生えている外来種という点が「残念」です。その他、クロオオアリを含む6種のアリ、二ホンミツバチ、ダイミョウキマダラハナバチを確認しました。



コマルハナバチ

その他
 昆虫が少なかったため、ニリンソウの花とアオバトの写真を紹介します。調査の最初からアオバトの鳴き声がして、最後に姿を見せてくれました。



ニリンソウ



アオバト

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年5月）

2017年5月11日 天候：晴れ 調査者1名
 昆虫の種類は先月よりも増えました。左の写真はニリンソウの花を撮影している時に、左のひざ下まで近づいてきたアナグマです。いきなり目と目が合ってビックリ。すぐにカメラを向けることができませんでした。



チョウ目（チョウ類 2種）
 全体の昆虫の種類は増えたのに、チョウは先月と同じ2種のままでした。テングチョウとスジグロシロチョウです。ガ類では、クロハネシロヒゲナガは珍しい種ではないですが、初標本となりました。その他、ヨツボシホソバの幼虫とキホロスジナミシヤクを確認しました。



キホロスジナミシヤク

バッタ目
 まだ多くの種は幼虫の時期です。成虫はモリヒシバッタだけを確認しました。幼虫は、写真のヤマクダマキモドキ、ホソクビツコムシ、フキバッタの仲間を確認しました。昨年、ホソクビツコムシを見る機会が多くなっているように思います。



ヤマクダマキモドキ幼虫

ハエ目
 林内と林縁に限らず、ニュースオドリバエをたくさん見ました。写真のオオフトホシヒラタアブは、自然遊学館に標本がない種なのに、撮影後に逃げられてしまいました。その他、種名が分かるものは、ハルササハマダラミバエとキアシフンバエだけで、種名が分からないものが多数です。



オオフトホシヒラタアブ

カメムシ目
 ハルゼミが鳴いていました。フチヒシウカ、ミヤマアワフキ、オビヒメヨコバイなどは、それぞれ単一の種として確定していないのかもしれませんが、これまでに見たことがない奴！と思って採集したものは、マルヒラタナガカメムシという自然遊学館に標本がない種でした。



オオヘリカメムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年6月）

2017年6月1日 天候：晴れ 調査者1名
 フナの葉が茂り、林内はだいぶ暗くなってきました。正午の気温が20℃以下なので、かなり快適です。木本では、アキグミ、ツクバネウツギ、ツリバナなどの花が咲き、ヤマウグイスカグラの赤い実が目立っていました。



チョウ目（チョウ類 8種）
 チョウ類は、オナガアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、クロヒカガ、ミスジチョウ、テングチョウ、ルリシジミ、コチャバナセセリを確認しました。テングチョウは50個体以上いました。死体を拾ったマエグロシラオビアカガネヨトウは、自然遊学館初標本となりました。



マエグロシラオビアカガネヨトウ

カメムシ目
 ハルゼミは20個体以上の鳴き声を聞きました。トゲカメムシはまだ幼虫でした。その他、種名の分からない幼虫が数種ありました。トホシカメムシは緑色がついていない個体がありました。初標本となったツヤカスミカメダマシは、名前にダマシが付きますが、カスミカメムシ科に属します。



トゲカメムシ幼虫

コウチュウ目
 クシヒゲベニボタル、トゲヒゲトラカミキリ、イタドリハムシなどの馴染みの種に加えて、大阪府レッドリスト種のシロジュウゴボシテントウが確認されました。初標本となったオオアカハハネカクシは体長2cm弱で、ハネカクシとしては大型です。



オオアカハハネカクシ

ハエ目
 ハエ目には、よく見かけるのに種まで同定できないものがたくさんいます。Rhagio 属の一種も樹幹にいて翅の編模様が目立ちますが、種名は分かりません。ヒメヒラタアブ属の一種、ミスアブ科のActina 属の一種もそうです。ベッコウガガンボやナミハナアブは分かりました。



Rhagio 属の一種

付図 1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年4月）

付図 2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年5月）

付図 3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年7月）

2017年7月6日 天候：晴れ 調査者1名

登山道に張り出した枝が折れるかもしれないという理由で、今年の3月に切り倒されてしまったブナの木です。新しく隣の当る場所ができ、そこに来る虫もいることでしょう。せめて、その記録も残していきたいと考えています。



チョウ目（チョウ類 12種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ヒカゲチョウ、ヒメジャノメ、アカタテハ、コミスジ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ルリシジミ、ベニシジミ、コチャバナセセリの12種を確認しました。写真はオカトラノオの花に来ていたコチャバナセセリです。



コチャバナセセリ

バッタ目

先月はナキイナゴの鳴き声を聞いていただけでしたが、今回は3個体のオスを撮影できました。大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されていますが、山頂では毎年確認されています。準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキも幼虫が確認され、一安心です。



ナキイナゴ

クウチュウ目

写真のムネアカクロジョウカイは、自然遊学館に標本がない種なのに、これに似た種と間違えて採集してしまいました。写真の触角の状態から種名が分かり、自分のミスに気付きました。ナキイナゴの写真が撮れて、気が抜けていました。標本がないスソアカベニボタルは、採集できました。



ムネアカクロジョウカイ

ハチ目

キオビホオナガズメバチは、自分の体に近づいてきたものです。腹部の各節の黄色い筋がやや細く、これまでの標本とは少し印象が違います。この種とトラマルハナバチ以外は、すべてアリで、ヒメオオスアリ以外は、ほとんど毎回の調査で確認されているものでした。



キオビホオナガズメバチ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年8月）

2017年8月3日 天候：晴れ／くもり 調査者1名

林内で咲いている花は少しか、ヤマジオウとキツリフネが目立つ程度でした。ミヤマアカネは、夏に山頂、秋に麓がパターンです。でも、秋になって何を決め手にして和歌山側か大阪側に降りるのか、分からないままです。



チョウ目（チョウ類 6種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、クロヒカゲ、ジャノメチョウ、ツマグロヒョウモン、ツバメシジミ、キマダラセセリの6種を確認しました。ガ類では、アゲハモドキ、シロオビドクガ、コスカシバ、シャチホコガ幼虫、トビモンオオエダシヤク幼虫などを確認しました。



ジャノメチョウ

カメムシ目

ヒグラシの鳴き声が一番多くて大半を占め、エソゼミ、アブラゼミ、ニイゼミの鳴き声は少しだけでした。姿を見たのも、ヒグラシだけです。その他、コガシラアワフキ、ツノアオカメムシ、セアカツノカメムシ死体を確認しました。



ツノアオカメムシ

クウチュウ目

登山道Bコースの伐採されたブナの太い枝に、ウスイロトラカミキリが来ていました。これと、ムラサキツヤハナムグリやアカハナカミキリが、稀な種と普通種の間ぐらいの扱いになります。その他は、キマワリ、サビハネカクシ、キバラヒメハムシなど、普通種ばかりでした。



ウスイロトラカミキリ

その他

写真は、アミメカゲロウ目のモイウスバカゲロウです。バッタ目は、アシグロツユムシ幼虫、ナキイナゴ、ツマグロバッタ、ヤマトフキバッタ、ハサミムシ目は、尾角が細長いエソハサミムシ、カマキリ目は、オオカマキリ幼虫を確認しました。



モイウスバカゲロウ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年9月）

2017年9月19日 天候：晴れ／くもり 調査者1名

至るところに落葉と落枝が散乱していたのは、2日前に台風18号が通過した痕でしょう。山頂近くのウリハダカエデの若木の幹が折れていました。虫たちも、風をやり過ごすのに苦労したことだと思われました。



チョウ目（チョウ類 4種）

チョウ類は、ミドリヒョウモン、アサギマダラ、ヤマトシジミの3種の成虫と、ジャコウアゲハの幼虫を確認しました。目撃した成虫の種数と個体数がとても少なく、台風の影響なのかもしれません。風変りな色形のジャコウアゲハの幼虫も、臭角を出す点では、他のアゲハと同じです。



ジャコウアゲハ幼虫

バッタ目

樹上からはクサヒバリの鳴き声が聞こえます。街路樹などに多いアオマツムシも1個体が鳴いていました。姿を見る数が多いのはツマグロバッタ、ヒロバナヒナバッタ、ヤマトフキバッタです。ヒメツユムシを3年ぶりに確認しました。ツユムシと付きませんが、ササキリモドキの仲間です。



ヒメツユムシ

カメムシ目

セミ類ではツクツクボウシの鳴き声が多く、ミンミンゼミとエソゼミは少しだけでした。山地に多い種では、トホシカメムシ（幼虫も）、トグカメムシ、ツマジロカメムシ、オトビサシガメ、ヒメハサミツノカメムシなどを確認しました。



トホシカメムシ幼虫

その他

写真は、山頂でよく見られるムネアカオオアリで、コナラの小枝にコロニーを作り出したアブラムシ（種名不明）の甘露を舐めていました。その他、オオカマキリ2♂3♀、ニホントビナフシの幼虫、ナガゴマフカミキリ、クロマルハナバチなどを確認しました。



ムネアカオオアリ

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年10月）

2017年10月5日 天候：くもり/晴れ 調査者1名
 気温が下がり、肌寒く感じます。登山道の脇で咲いている花はアキチョウジが多く、テイショウソウがちらほら、ミカエリソウはある場所にかたまっています。前年に落ちたブナの実から生えるウススキバナミタケも出始めました。



オオミスアオ幼虫

チョウ目（チョウ類 7種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、ルリタテハ、ミドリヒョウモン、アサギマダラ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリの7種を確認しました。ガ類では、登山道の木柵上にオオミスアオの幼虫を見つけ、その他、シロアヤヒメノメイガを確認しました。



バッタ目

樹上からはクサヒバリ、草上ではカンタンの鳴き声が聞こえます。よく見かけるのはヤマトフキバッタとヒロハネヒナバッタです。今年はこれまでヒトコブササキリモドキ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）の確認が幼虫だけでしたが、ようやく成虫を記録できました。



ヒトコブササキリモドキ

カメムシ目

エゾゼミがまだ2個体鳴いていました。先月、ムネアカオオアリアがアブラムシのコロニーを作り始めていると書いたものは、ヤナギコブオオアブラムシだと分かりました。これまで自然遊学館に標本がありませんでした。その他、モンキツノカメムシやツマジロカメムシを確認しました。



ヤナギコブオオアブラムシ

その他

オツネントンボは3個体いて、2012年以降の確認となりました。直翅類では、オオカマキリ1♂4♀、エダナナフシ1♀、ニホントビナフシ1♀を確認しました。イヌブナの葉に出来ていた円盤形の虫こぶは、イヌブナハボタンフシという名前で、タマハエの仲間が見つかるようです。



オツネントンボ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年11月）

2017年11月2日 天候：晴れ 調査者1名
 山頂の正午の気温は12℃で、数値としては低いものの、日差しの下では暖かく感じました。木々の葉は少し黄色がかったきましたが、赤色はほんの少しです。ブナ林内では、タゴガエルを狙っているヤブカガシを見ました。



チョウ目（チョウ類 3種）

チョウ類はあまり見かけず、ルリシジミ、キタテハ、テングチョウの3種だけを確認しました。ガ類は幼虫だけで、シャチホコガとモモスズメを確認しました。写真で示したシャチホコガの幼虫は、右側が頭で、頭と尾を背中側に反らせていて、時々、脚を細かく震わせていました。



シャチホコガ幼虫

バッタ目

ヒロハネヒナバッタとヤマトフキバッタは、そこそこ見られました。樹上では、クサヒバリがわずかに鳴き、地面からはマダラズスの鳴き声もちらほら聞こえました。右の写真は、ヒメツムシの衰弱した個体が、ハヤシクロヤマアリに運ばれているところです。



ヒメツムシ

カメムシ目

14種確認され、全体の種数の3分の1以上を占めました。ツマジロカメムシ、トホシカメムシ、エゾアオカメムシは、貝塚市内では和泉葛城山に分布がほぼ限られている山地性の種です。その他、モミジニタイケアブラムシやヒメツノカメムシは、あまり見かけない種です。



エゾアオカメムシ

ハチ目

キイロスズメバチ、シダクロスズメバチ、キボシアシナガバチを、それぞれ1個体ずつ確認しました。女王バチとして越冬する個体かもしれません。その他、オオモンクロベッコウ、ハヤシクロヤマアリ、クロヤマアリ、トラマルハナバチを確認しました。



シダクロスズメバチ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2017年12月）

2017年12月7日 天候：晴れ 調査者1名
 気温は3℃台ながら、日差しがあるので、暖かく感じます。その割には、とぼしい結果になりました。植物の実ではアキグミがちらほら程度です。山頂付近は木々の葉が落ち、バードウォッチングの時期に移ったようです。



昆虫

チョウ類の確認はありませんでした。カメムシ目ではツヤアオカメムシとヒメツノカメムシ、コウチュウ目ではナホシテントウ、ハエ目ではハタケヤマヒゲボソムシヒキとオオクロバエを確認しました。その他、コウチュウ目で科不明のものを1種採集しています。



ヒメツノカメムシ

キノコ（菌類）

山頂で時々お目にかかる吉田元三郎さんに会い、「今年もツキヨタケが生えていた」と教えてもらいました。自分では確認できなかったものです。この日やっと、老菌を確認できました。その他、倒木にハカワラタケ、アカマツの落枝にヒメシワタケを見つけました。



ヒメシワタケ

鳥類

山頂のトイレ前広場に大きなレンズを付けたカメラが並んで、シャッター音が響いていました。隊列の後ろからこっそり撮影し、帰ってからカシラダカとオオマシコであることを確認しました。その他、ヤマガラ、コゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラスを確認しました。



オオマシコ

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2017年12月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年4月）

2018年4月12日 天候：晴れ 調査者1名

チョウ類はヒオドシチョウとスジグロシロチョウの2種だけ、トンボ目やカメムシ目は見ず、まだ昆虫観察の季節ではなかったようです。撮影できた昆虫の画像が少なかったため、昆虫以外の動植物も紹介します。



ハチ目

すべて石や材の下にいたアリ類です。その中で、ヒメオオズアリだけ、まじな写真が撮れました。その他、クロヤマアリ、ムネボソアリ、キイロシリアゲアリ、トビイロケアリ、クサアリモドキを確認しました。同じ石の下に混生している所もありました。



ヒメオオズアリ

その他の昆虫

バッタ目では、ハヤシウマの幼虫の写真だけ撮れました。一昨年あたりから、ホソクビツユムシを見かける頻度が高くなり、この日も幼虫を確認しました。その他、タテジマカネコメツキや、ネコハエトリというクモに捕まったオドリハエ科の写真が撮れました。



ハヤシウマの幼虫

その他の動物

山頂神社石段下の材の下で、コガタブチサンショウウオを確認しました。2004年以降の自然遊学館の記録では10例目となりますが、最も高い標高（alt. 825m）での確認で、沢（水辺）から離れた場所での確認も初めてでした。



コガタブチサンショウウオ

植物

登山道Aコースの最後のカーブでは、エイザンスミレ、ニリンソウ、ヤマネコノメソウなどが咲いていました。さらに調査範囲外ですが、白糸の滝まで降りて、ヒトリシズカの花を撮影しました。寛野良子さんから開花情報をいただいていたものです。



ヒトリシズカ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年5月）

2018年5月17日 天候：晴れ 調査者1名

ブナ林の中は、先月よりはやや暗くなりました。「花の時期」は過ぎたようです。アキグミが満開のほかは、コバノガマズミの花を少し見た程度でした。アキグミの花を見ていると、アオハセセリがやってきました。



チョウ目 7種

チョウ類はオナガアゲハ、ジャコウアゲハ、キタキチョウ、スジグロシロチョウ、テングチョウ、アオハセセリ、コチャバナセセリの7種を確認しました。ガ類では、登山道の木柵にクロモンキリバエダシヤクの幼虫を見つけ、奇妙な体型を生かす(?)動作を動画で撮影できました。



クロモンキリバエダシヤクの幼虫

カメムシ目

ハルゼミが最低でも9個体鳴いていました。ミヤマアワフキ、ツマジロカメムシ、オオトビサシガメなど山地性の種のほか、丘陵地にもいるアカサシガメ、シロヘリカメムシ、アオモンツノカメムシ、ヒメホシカメムシ、オオツマキヘリカメムシなどを確認しました。



ツマジロカメムシ

コウチュウ目

写真のホリアナアキソウムシのほか、アカネカミキリとハイイロヒロウドコガネが自然遊学館に標本がない種でした。オオオサムシとヤマトオサムシが2個体がかりで、大ミズの後端部を切り離していました。その他、アイノカツソウムシやヒメテオキノコムシなどを確認しました。



ホリアナアキソウムシ

植物

クロオオアリの羽アリが巣から50個体ほど出てきていました。ムネアカオオアリは羽を落とした女王を1個体採集しました。ハナバチ類では、コマルハナバチとクマバチ、その他のアリ類では、シワクシケアリ、クサアリモドキ、ヒメオオズアリ、アメイロアリなどを確認しました。



クロオオアリ（羽アリ）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年6月）

2018年6月14日 天候：くもり 調査者1名

ウツギの花がここかしこ満開で、右の写真のミドリヒョウモンのほかにも、シロスジベッコウハナアブ、ヨコシマオオヒラタアブといった大型のハナアブや、アシフトハナアブ、コマルハナバチなどが盛んに吸蜜していました。



チョウ目 チョウ類7種

チョウ類は、ジャコウアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、モンキチョウ、ツマグロヒョウモン、ミドリヒョウモン、テングチョウを確認しました。ガ類では、写真のフトフタオビエダシヤクや、ホソオビヒゲナガ、フクラスズメ（幼虫）などを確認しました。



フトフタオビエダシヤク

カメムシ目

ハルゼミは1個体だけ鳴いていました。この日は山地性の種の確認は少なく、ベニキジラミ、トビイロツノゼミ、ヤニサシガメ、ミツボシツチカメムシ、シロヘリカメムシ、ハラヒロヘリカメムシ、オオツマキヘリカメムシ、ヒメクモヘリカメムシなど、平地にもいる種を確認しました。



ハラヒロヘリカメムシ

コウチュウ目

ニセクロホシテントウゴミムシダマシの交尾ペアを多くみました。ルリゴミムシダマシは、自然遊学館に標本がない種でした。その他、ヤマトオサムシ、ベニボタル、クシヒゲベニボタル、マルムネジョウカイ、カシルリオトシブミ、キオビナガカッコウムシなどを確認しました。



キオビナガカッコウムシ

植物

トゲアシオオベッコウは、自然遊学館に標本がない種でした。今は、トゲアシオオクモバチと改名されました。写真のハチガタハバチは、アシナガバチに似ています。これまでハバチ類の専門家吉田浩史さんが和泉葛城山で採集していましたが、自然遊学館には標本がありませんでした。



ハチガタハバチ

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年7月）

2018年7月12日 天候：くもり 調査者1名
 正午の気温が22℃なら、心地よく調査できます。花が目立つのはオカトラノオとリョウブです。山頂のトイレの壁に、クシヒゲカゲロウが止まっていた。写真のハエは科も不明ですが、色と形が上品な印象を受けました。



チョウ目 チョウ類8種
 チョウ類は、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ヘビシジミ、ツバメシジミ、キマダラセセリを確認しました。カ類では、写真のフナアオシャチホコや、ウスイロカザリバ、ホタルガなどを確認しました。



フナアオシャチホコ

バッタ目
 今年はこれまで、ナキイナゴの鳴き声しか確認していませんでしたが、この日は数個体、姿を確認し撮影することができました。ツマグロバッタやホソクビツユムシが成虫になっていました。ハヤシウマ、ヒトコブササキリモドキ、ヤマトフキバッタはまだ幼虫でした。



ナキイナゴ

カメムシ目
 ハルゼミの鳴き声はもう聞きませんでした。ヒグラシとニイニゼミが鳴き、登山者が神社石段で見つけたエソゼミの幼虫を、切り株に付けましたが、羽化する体力は残っていませんでした。その他、トグカメムシやセアカツノカメムシなどを確認しました。



ヒグラシ

コウチュウ目
 キイロトラカミキリは、ほぼ20年ぶりの標本となりました。ウスイロトラカミキリはそれほど珍しい種ではありません。写真のコウヤホソカミキリは、自然遊学館に標本がないのに、撮影途中で逃げられてしまいました。腹部の鮮やかな赤色が特徴です。



コウヤホソハナカミキリ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年8月）

2018年8月9日 天候：くもり/霧 調査者1名
 正午の気温が19℃台で、霧がかかっている、幻想的な景観でした。3、4年前からツキヨタケやトンビマイタケが出ていたブナの幹がとうとう折れてしまいました。その根元には立派なトンビマイタケが生長していました。



チョウ目 チョウ類7種
 チョウ類は、キタキチョウ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲ、コムスジ、ミドリヒョウモン、イチモンジセセリを確認しました。カ類では右の写真のクロモンクガやオオシマカラスヨトウ、クロテンシロヒメシャク、アカスジシロコケガ幼虫を確認しました。



クロモンクガ

カメムシ目
 セミ類は、エソゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ニイニゼミ、ミンミンゼミの5種の鳴き声を聞きました。その他、モンキツノカメムシ、セアカツノカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤマアオカメムシ、ハリカメムシなど、常連の種を確認しました。



モンキツノカメムシ

コウチュウ目
 前述のトンビマイタケにはサビハネカクシがたかっています。ヤシャブシにはルリハムシとオトシブミなど、植物との組み合わせがある程度決まっている種もいます。伐採されたブナの株にはテンの糞があり、センチコガネが来ていました。右の写真は擬死したツツソウムシです。



ツツソウムシ

その他
 ミヤマアカネを山頂で見るのは8月と決まっています。トンボ目はこの1種だけでした。バッタ目ではアシグロツユムシの幼虫が葉上で目立ちました。成虫よりも幼虫の方が美しい模様をしています。曇りでハナアブやハナバチの仲間も少なく、トラマルハナバチを見た程度でした。



ミヤマアカネ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年9月）

2018年9月27日 天候：くもり/晴れ 調査者1名
 9月4日に通過した台風21号による倒木や折枝が多数ありました。フナ、ウリハダカエテ、リョウブ、アカマツ、スギなど樹種を問いません。飛翔する昆虫が少なく、すさんだ光景と相まって、寂しい気分になりました。



チョウ目 チョウ類5種
 チョウ類は、クロヒカゲ、ミドリヒョウモン、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、キマダラセセリを確認しましたが、いずれも1~2個体だけでした。写真はミドリヒョウモンのメスです。カ類では、ホシホウジャクがホバリングでヨシノアザミから吸蜜していました。



ミドリヒョウモン

カメムシ目
 セミ類は、エソゼミの鳴き声を1個体だけ聞きました。その他、ツノアオカメムシやツマジロカメムシ（幼虫）といった山地性の種のほか、ツマグロオオヨコバイ、ヒメツノカメムシ、ムラサキナガカメムシ、ヒメクモヘリカメムシなどを確認しました。



ツノアオカメムシ

バッタ目
 クサヒバリ、シバズ、マダラスズ、モリオカメコオロギ、カンタンノ鳴き声を聞きました。ヤマトフキバッタとツマグロバッタは元気がなく、写真のホソクビツユムシも翅がボロボロでした。アシグロツユムシはやや多めで、メスは日光浴をしていました。



ホソクビツユムシ

ハチ目
 写真のスジアオゴミムシは、自然遊学館の標本では20年ぶりとなりました。コウチュウ目は少なく、ハチ目では、オオハナアブ、シロスジベッコウハナアブ、シナヒタラヤドリバエなどが吸蜜していました。その他、ヤマトシリアゲやオオカミキリを確認しました。



スジアオゴミムシ

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年10月）

2018年10月9日 天候：晴れ 調査者1名
台風による倒木の処理は徐々に進んでいました。道端の草が風にやられた場所では昆虫も少なめです。山頂付近でキノコに詳しい吉田元三郎さんに会い、ホオノキの実に生えるホソツクシタケ（右の写真）を教えてくださいました。



チョウ目 チョウ類7種
ヨシノアザミの花には、これから南に渡りをするアサギマダラが10個体以上集まっています。それに加えて、イシガケチョウ、アカタテハ、イチモンジセセリ、クロホウジャクが1個体ずついました。その他、ミドリヒョウモン、チャバナセセリ、ヤマトシジミを確認しました。



イシガケチョウ

バッタ目
樹上からは、クサヒバリの声が多く、アオマツムシも数個体鳴いていました。日向の地面ではヒロバネヒナバッタが鳴き、みどうしが近づくと鳴き比べによる「けんか」のような行動が見られました。ヒトコバササキリモドキは、1♀を確認しました。



ヒロバネヒナバッタ

カメムシ目
これからは成虫で越冬する種の割合が高いカメムシのシーズンだと思っていたのに、意外にも、ツマグロオオヨコバイ、ヒメホシカメムシ、トホシカメムシ、クサギカメムシの4種という結果に終わりました。ツノカメムシ科がまったく確認されなかったのも意外です。



トホシカメムシ

その他
山頂付近の広場でアキアカネを3個体確認しました。トンボ目はその他、ウスバキトンボだけでした。ヨシノアザミの花には、先のチョウ類だけでなく、オオハナアブ、キンケハラナガツチバチ、トラマルハナバチなども蜜を吸いに来ていました。



アキアカネ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年11月）

2018年11月9日 天候：晴れ 調査者1名
暖かい1日でした。正午の気温は20℃を越えていました。それでも、吸蜜できる植物が減ったせいか、昆虫は先月よりかなり減り、調査としては物足りませんが、ピークを迎えた紅葉が目の保養になりました。



チョウ目 チョウ類4種
南向き斜面では、カタバミ、イヌタテ、タチツボスミレなどが少し咲いていて、ヤマトシジミがそこそこ飛んでいました。あとは、テングチョウ、キタテハ、ウラナミシジミをそれぞれ1個体ずつ、翅を開いて体を温めているシーンを見ただけに終わりました。



テングチョウ

バッタ目など
ヒロバネヒナバッタはまだ活動期のように、さかんに鳴いていました。樹上からクサヒバリの鳴き声が少し、地面からはシバズ、マダラスズ、モリオカメコオロギの鳴き声が聞こえます。ヤマトフキバッタを1個体、オオカマキリのメスを2個体見ました。



オオカマキリ

その他の昆虫
Aコース沿いの斜面にブナの倒木があり、ツキヨタケの老菌が30本ほど出ていて、独特の臭いを放っていました。そのひだにはキイロセマルケシキスイとシワクシケアリが少しいました。期待していたカメムシ目は、ミヤマアワフキとセアカツノカメムシだけでした。



キイロセマルケシキスイ

その他
神社の石段下付近の小さい倒木の下で、コガタブチサンショウウオを見つけました。体より少し大きめのスペースをつくり、そこには数本の地下通路が繋がっているように見えました。自分で掘ったものではない可能性もあります。鳥は、アトリ、ヤマガラ、ホオジロ、コグラなどを見ました。



コガタブチサンショウウオ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2018年12月）

2018年12月13日 天候：くもり/晴れ 調査者1名
気温が氷点下になっても、陽が当たれば暖かい感じがします。日当たりのよい南斜面では、タチツボスミレが少し咲き残っていました。昆虫の確認はごくわずかだったので、他の節足動物、鳥類、植物・キノコの紹介をします。



昆虫
ヤマトフキバッタの死体が冬を思わせませす。マダラスズが1個体鳴いていました。ちらほら飛翔しているものは、キノコバエ科でした。昆虫を探すのは、草の上ではなく、石や倒木の下が中心になります。それでも、ゴミムシの一種やトビイロケアリを確認できたのでした。



ヤマトフキバッタの死体

その他の節足動物
クロヤチグモ、トビズムカデ、ヒメフナムシを確認しました。石や倒木の下です。ムカデとクモは1個体ずつでしたが、ヒメフナムシは10数個体確認できました。クモ類の成熟期は春から秋にかけてが多いのに、クロヤチグモの場合は、秋から春にかけてです。



クロヤチグモ

鳥類
山頂トイレ前広場には、ホオジロ、アオジ、カシラダカがいました。右の写真はホオジロで、この時期、最も写真に撮りやすい種です。その他、調査コースで、ヒヨドリ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヤマガラ、コガラの鳴き声と姿を確認しました。



ホオジロ

植物・キノコ
タチツボスミレのほか、イヌタテとアキノキリンソウの花を確認しました。この時期の赤い実と言えば、ヤブコウジです。ポタンズルの実も白く「咲いている」ように見えます。例の伐採されたブナの枝からは、アラゲニクハリタケとヒメキクラゲが生えていました。



ヒメキクラゲ

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2018年12月）